地域と共生する大学づくりのための全国縦断熟議

熟議2012in富山大学「災害が起きたらどうする？」

富山大学地域連携推進機構　生涯学習部門

大学と地域との共生・協働関係構築

富山大学

地域のことを知り合いたい！役に立ちたい！
地域のことを知りたい？　大学に何を求めているの？
地域との結びつきはどうしたら？
大学の取り組みを知ってもらうは？
　教育・研究の場として地域連携
　社会貢献活動・大学の多くの取り組み紹介したい

熟議
「災害が起きたらどうする？」

相互理解
情報共有
課題解決

参加者(学習者)

災害が起きたら・・・・・
どうしたらいいの？何ができるかな？
大学は何ができるの？

NPO・ボランティア活動実践者
社会教育関係職員
行政職員　　町内会
学生　　大学職員

キーワード
提言

地域の声
協議の中で

NPO → 互いの得意分野を知りながら連携したい。

社会教育施設 →大学と連携して・・・

「災害」について講座を開きたい。
「応急措置」の講座を開きたい・・・

行政 → 学生に行政の取り組みを知ってほしい。
地域の大学と連携したい。

企業 → 技術開発を協働で
専門的な知識を学びたい。

災害時だけでなく・・・
もっと大学と連携したい。

他のテーマで協議したい・・・

県内の大学と連携

大学

地域だけでは
解決できない課題

⇓

共生
協働

大学と地域と
協働で解決

・地域への学生参加・参画
・将来的なまちづくりを考える
・行政との連携
・NPO、ボランティア活動への協力
・・・・・etc

地域

「熟議まで」と「熟議から」

防災・減災についての意識を高め、具体的なイメージを持ち、ただちに役立つような知識・用意について考える機会を大学が提供するためにはどうすればよいのか。特に大学は何ができるのか。

このたびの「地域と共生する大学づくりのための全国縦断熟議」へと連動していく取り組みについて紹介します。

ステップ１：学校での対応

芝園小学校防災教育フォーラム（2011.8.30.於芝園小）

災害発生にあたり、地域社会に対し各学校が担う役割に対しては期待が高まります。とりわけ、数の多い小学校は重要なポイントになります。そこで富山市立芝園小学校において、同校教職員の方々を対象にして、(1)「富山県における災害」と題する講演会とともに、(2)ケーススタディーの報告を行い、協議の場をもちました。

とりわけここでは、①川縁に位置する同校の立地上の危険性、及び②学校が「避難所」として機能するためにはどうしたらよいのか、について考察を深めました。

ステップ２：ワークショップ

「災害が起きたらどうなる？」（2012.2.25.於富山国際会議場）

災害が発生したらどのような状況におかれることになるのでしょうか。具体的なイメージを得るために、(1)被災地での支援活動に携わる佐藤秀明氏による講演を行い、(2)ワークショップ形式にて、災害発生の前後をシミュレーションする形で対話を進めていきました。対象となったのは、学生や自治振興会、防災士、行政職員の方々です。

なお、このワークショップを開催する前に、富山大学の学生を対象とした小規模の予備的な議論を行いました。

ステップ３：熟議

「災害が起きたらどうする？」（2012.7.7.於富山県民会館）

前述のフォーラム、ワークショップをふまえて、一歩ふみこんだ形で熟議「災害が起きたらどうする？」を企画しました。今、地域と大学が共に考え、取り組むことを全国に向けて発信することが重要な課題であり、文部科学省と共催して開催することになりました。

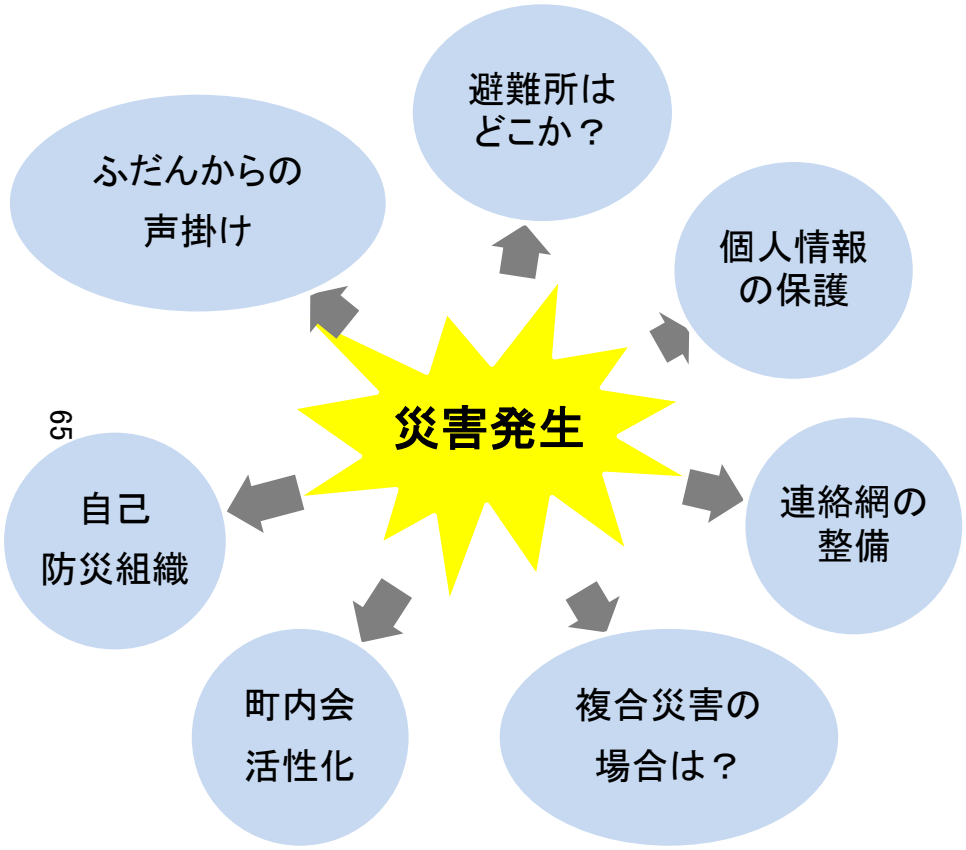
熟議は、「地域を考える」「支援活動を考える」という２つのテーマについて小グループで協議しました。ファシリテータには、富山大学教員とＮＰＯスタッフがあたることになりました。

・話題提供（竹内章部門長）：富山県呉羽山地域の断層で地震が起きた場合のシミュレーション
・協議１：11：40～自己紹介の後、各自の参加の動機、問題意識などについて語る。
・協議２：13：30～災害発生時についての具体的なシミュレーションをしながら、状況について理解を深める。
・協議３：15：00～前段の協議をふまえ、大学にどのような役割が求められているかを討議する。

★ネクスト・ステップ★

●熟議開催時のネットワーク構築を援用しつつ、大学開放（公開講座・公開授業OpenClass）参加者による、市民参加型のワークショップを開催。H25年度から開催する。
●大学を核として、富山県内全15市町村において「災害」をテーマに熟議実施にむけて取り組んでいる。

「地域を考える」グループ



災害発生時の危機意識

大学に期待される役割

・災害への理解を深め、広めること
・地域と連携したイベントを開催する（美化大作戦、清掃への）参加。
・学生リーダーの育成
・教育・啓蒙活動

「支援活動を考える」グループ

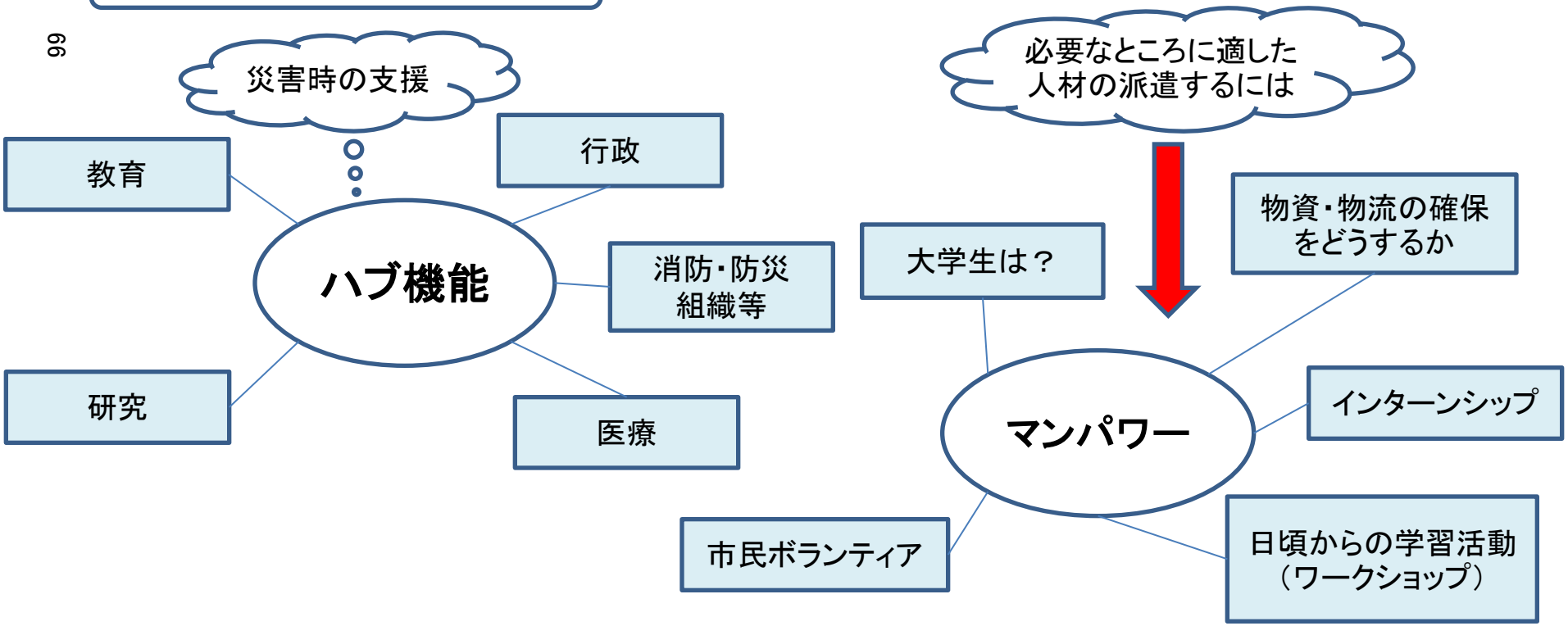
支援者の立場

・支援者も同時に被災者であることをふまえる。
・どういう団体とかかわるか？どうやってつながりを確保するか？

備え・対策として

・公民館行事、小学校運動会への参加、お祭り、向こう三軒両隣の挨拶

大学ができること



キーワード集

協議結果をキーワードで発表

「地域を考える」グループ（A~Gグループ）

A：地域のつながり、避難訓練の大切さ
B:高齢化、二十歳の挑戦
C:防災意識の向上、平時からの取り組み
D:てんでんにせんまいけ（それぞれでやりませんか）
　はなさんまいけ（話してみよう）
E:危機意識、富山版防災情報
F:生きる力、事後・助け合い
G:避難所、連携、大学

「支援を考える」グループ（Hグループ）

H：ハブ、マンパワー